

東京湾の海

世界の多くの大都市が海に面している。これは古来より交通手段に船が用いられていたためだ。人も物資も容易に移動が可能である。日本の首都・東京には東京湾があり第二の都市・大阪には大阪湾がある。その湾内に隣接する横浜港も神戸港も日本を代表する大都市でもある。

東京湾は広義には千葉県館山市の須崎灯台から神奈川県三浦市の剣崎灯台まで引いた線と、陸岸に囲まれた海域を示す。この東京湾西岸には日本を代表する京浜工業地帯（東京都大田区から神奈川県川崎市・横浜市）という強大なエリアが存在する。更に東京湾東岸には京葉臨海工業地帯として千葉市から木更津市まで延々20km以上にわたって石油コンビナートが続く。ここには石油精製所、火力発電、製鉄所がある。



東京湾の一日の交通量はタンカー、コンテナ、貨物船、客船などの大型船だけでも約500隻になる。日本はもともと島国でもあるため輸出入の99%は海を使って運ばれてくる。特に食物の60%、石油などのエネルギーは90%が輸入に頼っており生活に密着した生命線となっている。この宝の海がなければ日本人は生きていくことは出来ない。

その昔の東京湾は寿司ネタからアサクサノリに至る海産物の恵み豊かな所であった。しかし明治時代に入ってから急速な人口集中により2000万人を超す過密地域となっている。そこから排出される生活用水、工業用水等で1970年代には環境汚染のピークを迎え、一時は死の海とまで言われた。その後、意識変革、技術変革、様々な規制と環境保全の取り組みが進み、東京湾は豊かな生態系を取り戻しつつ水質改善も進んでいるようである。

東京湾フェリーに乗った。釣り船がゆったりと海に浮かび、小島には釣りを楽しむ人がいた。海は広い。いつまでも豊かで美しい自然の海を守りたいものだ。

撮影 2015 年春

